

V 出版物の歴史

1944年6月に本研究所が創立されてからの出版物の歴史，主に研究成果刊行物の歴史について述べる。

【講究録】



統計数理研究所の創立後まもない，1944年7月15日に 講究録 第1巻第1号が発刊された。この年度には第1巻第14号(1945年1月31日)までが刊行された。この後，太平洋戦争末期から終戦後の混乱期のため刊行が中断されたが，1年2ヶ月後に第1巻第15号(1946年3月31日)が発刊された。以後年度ごとに1巻が刊行され，第2巻と第3巻は各24号まで，第4巻から第8巻は各12号までが発刊された。第8巻12号(1953年3月)をもって廃刊となるが，これは 統計数理研究所彙報に発展，継続された。戦中および戦後の物資の乏しい時期であり，ガリ版刷りの印刷物である。極度に悪い研究環境のなかではあったが，わが国の統計学の創世期を思わせる様々な研究が発表されている。内容は確率論，サンプリング，分布論，実証的研究，論文の紹介などである。

【(The) Annals of the Institute of Statistical Mathematics】



研究成果を欧文で発表するものとして，1949年8月に (The) Annals of the Institute of Statistical Mathematics Vol.1, No.1が発刊された。1953年のVol.5までは年2冊，1954年のVol.6から1987年のVol.39までは年3冊を刊行してきた。主に雑誌の交換などの形で全世界に配布してきたが，1988年のVol.40から出版形態が変わり，Kluwer Academic Publishersから出版，販売し，年4冊(合計約800頁)の刊行となり，現在に至っている。なお，編集

は世界各国の統計学研究者の協力を得て本研究所で行っているが、世界各国から投稿があり、国際的な統計学の主要な雑誌として広く世界に知られている。また、国際的な学術文献引用索引誌 Science Citation Index の Source Publication のひとつとして利用されている（1987年から一時途絶えていた）。1959年にVol. 1 からVol.10まで、1966年にVol.11からVol.17まで、1978年にVol.18からVol.30まで、それぞれ総目次、著者別論文名、分野別論文名の冊子が出版されている。その他8冊の Supplement が出されている。

【統計数理研究所輯報】 【数研研究レポート】



1950年9月に 統計数理研究所輯報 が発刊され、調査等の実際問題についてその準備、計画、実際、処理等に関する研究の報告にあてた。ガリ版刷りで、不定期刊行物、第1号から第11号(1953年1月)まで発刊された。講究録と併せて彙報に継続、発展した。輯報は、性格的には1955年10月に発刊された 数研研究レポート に引き継がれたものと思われる。

【統計数理研究所研究レポート】



数研研究レポートは不定期刊行物で、主として調査データを報告すると性格が述べられている。1978年3月のNo.42から 統計数理研究所研究レポート となり、現在No.74まで発刊されている。

【統計数理研究所彙報】 【統計数理】



1953年9月に 統計数理研究所彙報, (*The Proceedings of the Institute of Mathematical Statistics*) が発刊された。これは邦文による研究報告誌であるが、英文の論文名と要旨がつけられている。講究録と輯報を併せ、継続、発展させたものである。ほぼ年2冊刊行され、1985年版より 統計数理 と改題され(英文名は変わらない)、現在に至っている。第32巻第2号(1984年)に講究録、輯報、彙報の総目次が掲載されている。

【統計研究通信】



1950年代は、まだ文献などは十分ではなく、かつ容易に入手できず、また研究者間の交流も少なかった。そのため、統計学の研究者の研究連絡、促進を図ることを目的として1958年3月に 統計研究通信 を発刊した。主要な雑誌の目次、研究者名簿、海外事情等を載せた。年1冊、第18号(1975年3月)まで刊行した。

【統計数理研究所シンポジウム記事】



1960年代に入っても、学会を除けば全国規模の研究集会は少なく、研究テーマをもったシンポジウムの開催が望まれていた。1968年12月9日～10日の2日間、当時の話題であったテーマ「ノンパラメトリックな統計的方法」に関するシンポジウムが本研究所主催で開催された。そこでの講演、討論を記した 統計数理研究所シンポジウム記事1 が1969年3月に出版された。以後毎年2件のシンポジウムを開催し、そこでの講演、討論を1冊のシンポジウム記事にまとめて各年の3月に刊行した。最後のシンポジウム記事6(1973年12月)は1件のシンポジウムについての報告である。

【テクニカルレポート】



研究成果の速報性やプライオリティーなどを示すためにテクニカルレポート（Research Memorandum）が1966年2月に刊行された。1993年8月現在No.480までが登録されている。

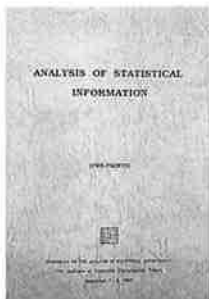
計算機関連のテクニカルレポートとして1987年3月に **統計計算技術報告** が刊行され、1993年現在No.24が出されている。

【Computer Science Monographs】



計算機の進歩に伴い、複雑な統計手法のプログラム化や統計科学関連の計算プログラム等の研究開発も進んだ。これらの研究成果を発表する報告誌として、Computer Science Monographs が1973年6月に刊行された。不定期刊行物で、1993年8月現在No.27まで刊行されている。

【国際会議関連記事】



研究交流の国際化をめざして1979年11月28日～30日に東京国際統計会議が本研究所で開催された。海外から約30名、国内から約140名が参加し、65件の講演があった。Proceedings “Recent Developments in Statistical Inference and Data Analysis” がNorth-Holland から1980年12月に出版された。以後、太平洋統計会議（本研究所共催、3回開催）に引き継がれ、いずれも Proceedings を出版している。また、1989年12月5日～8日に統計的情報に関するシンポジウムが本研究所主催で開催され、海外の研究者による10件、国内の研究者による19件（うち所内10件）の講演があった。本シンポジウムはテーマを「情報」にしぼり、これに関する深い議論がなされ、報告の一部は Annals に掲載された。

【共同研究関係】



1985年4月に大学共同利用機関に改組転換され、共同研究が組織的に行われるようになった。その成果をまとめて報告するために1986年3月に 統計数理研究所共同研究レポート (*The Institute of Statistical Mathematics Cooperative Research Reports*) が刊行され、1994年3月現在No.60まで出されている。また、1991年度から 共同研究実施報告書、共同研究員名簿 が刊行されている。

【統計数理研究所年報，概要，ニュース等】



そのほかに研究所の広報誌として、研究成果、本研究所の行事や組織等を掲載した 統計数理研究所年報 が1967年から毎年刊行され、現在に至っている。1952年から1966年までは年報の前身である 統計数理研究所要覧 がある。1972年からは、ほぼ毎年 統計数理研究所概要 が刊行されている。これは数件の研究をやや細かく紹介し、併せて本研究所の研究活動・組織等を掲載した小冊子である。1987年3月から年5回 統計数理研究所ニュース を発行し、本研究所の研究活動（セミナー、講演会、共同研究等）を広報している。1988年には絵で見る「広がる統計数理の世界」、1989年3月には本研究所の紹介ビデオ「未来をめざす統計数理」が出された。また、海外向けには本研究所研究者名や組織、研究成果等を掲載した 英文要覧 (*Activity Report*) が刊行されている。1956年3月から1960年までは毎年、その後数年おきに刊行し、現在に至っている。